

株主通信

2019年3月期 中間期

2018年4月1日から2018年9月30日まで



証券コード:4461



第一工業製薬株式会社



『こたえる、化学。』を實踐し、 21世紀に輝くファインケミカル メーカーを目指します。

5カ年計画「REACT1000」の4年目となる
2019年3月期。持続的成長を支える
新たな基盤構築をもとに、ユニ・トップの
未来作りを推進します。

代表取締役 会長 兼 社長 **坂本隆司**

市況環境は厳しいと予想しますが、「ネクスト」の強化を中心に業容の拡大に取り組みます。一方で、「アクチャル」の不採算事業の見直しを進め、採算性の改善を図ります。期初予想をしっかりと達成し、2020年3月期計画の連結売上高670億円、営業利益60億円に向けた軌道作りを進めます。

新分野に挑戦する「ドリーム」領域で、 「ライフサイエンス」への入り口を 作りました。

かねてより、新規事業立ち上げに向けた取り組みを進めてきました。この上半期にライフサイエンス分野において、株式会社バイオコクーン研究所(本社:岩手県盛岡市)と池田薬草株式会社(本社:徳島県三好市)を完全子会社としました。

バイオコクーン研究所は、カイコや桑の持つ機能性の解明研究を進めている大学発ベンチャーです。老化マウスによる実験を行い、脳の海馬の傷が治療する神経保護特性を立証し、多くの論文を発表して

います。「養蚕イノベーション」を提唱し、岩手県の養蚕農家の育成などの地方創生にも積極的です。

池田薬草は、天然物からの抽出物を濃縮し、スプレードライによる粉末化技術*1に優れています。医薬品原料の製造可能なGMP**2設備を保有し、徳島特産のスダチに含まれる機能性成分「スダチチン」などを自社生産しています。

これら2社の事業資源に、当社の100年にわたる開発・製造プロセス技術を組み合わせることを目指し、ライフサイエンス事業を立ち上げました。異業種メーカー、大学、病院などと連携して、社名にある「製薬」、特に「製剤」の分野を切り拓きたいと考えています。

*1 スプレードライ:液体を霧状にして、熱風で短時間に乾燥させ、球状の粒子を作る技術
*2 GMP (Good Manufacturing Practice):医薬品などの製造管理と品質管理に関する基準

サステナブルな成長の世紀に 変質しつつある流れのなかで、独自性・ ユニークさを評価される企業を目指します。

ある外国人ジャーナリストの分析によると、20世紀はGDP(国内総生産)、平均年齢、二酸化炭素排出量がそれぞれ約15倍に拡大しました。前の百年とは異なり、21世紀はサステナブル(持続的)でゆるや

かな成長に変質するとのことでした。

このような変化のなか、当社グループはどのように持続的成長を実現するのか?—私は、コア事業と呼んできた既存事業の基礎技術を活用したイノベーションが不可欠だと考えています。インターネットによりスピードが加速されるものの、ゆるやかに拡大する経済にあっては、規模や市場シェアを狙うことは不適切だと思っています。当社らしい独自性・ユニークさを評価される領域の構築に注力することが、何より重要になると思います。

21世紀における当社グループの持続的成長は、「ネクスト」と「ドリーム」の領域がけん引することになるでしょう。併せて、「アクチャル」領域の見直しを行い、筋肉質な事業構造に変えていきます。

関係会社5社と共に、経済産業省が主催する「健康経営優良法人2018~ホワイト500~」に認定されました。この認定が、今後の働き方改革や多様な社員の活躍推進につながることを期待しています。

21世紀に輝くファインケミカルメーカーを目指し、ユニ・トップの未来作りを推進する当社グループを今後ともご支援をいただきますよう、お願い申し上げます。

「ネクスト」の事業化をここに、 新たな事業ポートフォリオの構築を 進めています。

2015年4月から始まった「REACT1000」のもと、既存事業の「アクチャル」領域で不採算事業の整理を進めました。また、「インスパイアード・パートナー」と「お客様起点」による新規事業を立ち上げた結果、アクチャルの周辺事業である「ネクスト」領域が好調です。これらの取り組みを通じ、前2018年3月期に収益構造が大きく変わったと判断しています。

当2019年3月期上半期は、引き続き「ネクスト」領域での増産効果が収益に貢献しました。一方で、ここ数年落ち着いていた原油価格が上昇基調にあり、ボディーブローのように効いてきています。また、対売上高比率5%以上を目指す研究開発費は、対前年同期で拡大傾向にあります。主に新規事業の立ち上げのため、販売管理費も増加しました。

これらの結果、当上半期は、期初予想を若干上回る利益水準となりました。下半期に向けても、原材料の

売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



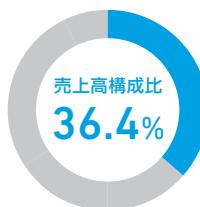
経常利益 (百万円)



親会社株主に帰属する
当期(四半期)純利益 (百万円)



事業セグメントの概況(第2四半期累計)



売上高
106億99百万円
前年同期比 +2.7% ↗

営業利益
7億30百万円
前年同期比 -29.3% ↘

ゴム・プラスチック用途、トイレタリー用途が堅調に推移し、IT・電子用途は好調に推移し、石鹼・洗剤用途は伸長しました。その結果、売上高は総じて好調に推移しました。



売上高
40億7百万円
前年同期比 +9.6% ↗

営業利益
1億24百万円
前年同期比 -59.2% ↘

セルロース系高分子材料は飼料用途がやや低調に推移しましたが、医薬品用途は堅調に推移し、エネルギー・環境用途は伸長しました。海外の化粧品用途が順調に推移し、売上高は総じて伸長しました。



売上高
46億42百万円
前年同期比 -1.5% ↘

営業利益
△3百万円
前年同期 60百万円

フロン規制に関連する環境配慮型の合成潤滑油は好調に推移しましたが、土木用薬剤は大きく落ち込みました。その結果、売上高は総じてやや低迷しました。



売上高
79億58百万円
前年同期比 +15.3% ↗

営業利益
11億89百万円
前年同期比 +38.7% ↗

難燃剤はゴム・プラスチック用途が順調に推移し、光硬化樹脂用材料はIT・電子用途が顕著に伸長しました。その結果、売上高は総じて大幅に伸長しました。



売上高
21億31百万円
前年同期比 -10.5% ↘

営業利益
23百万円
前年同期比 -77.4% ↘

太陽電池用途の導電性ペーストは伸長しましたが、射出成形用ペレットはやや低迷しました。その結果、売上高は総じて大きく落ち込みました。

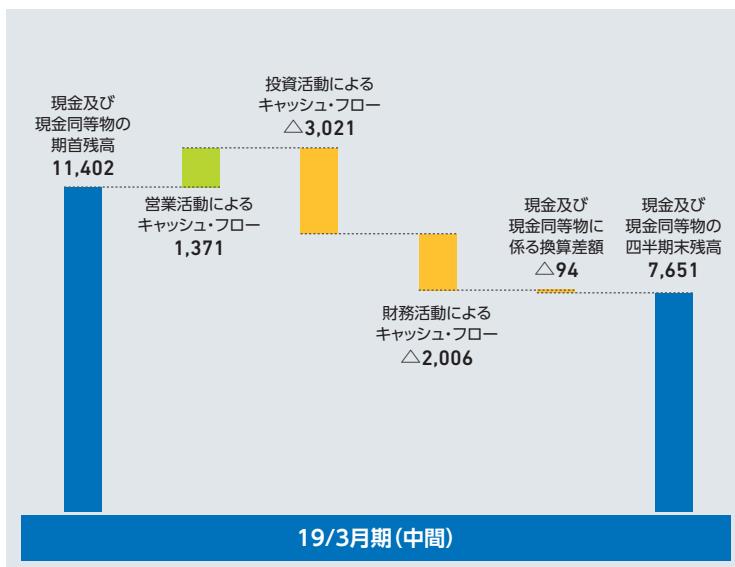


連結財務情報

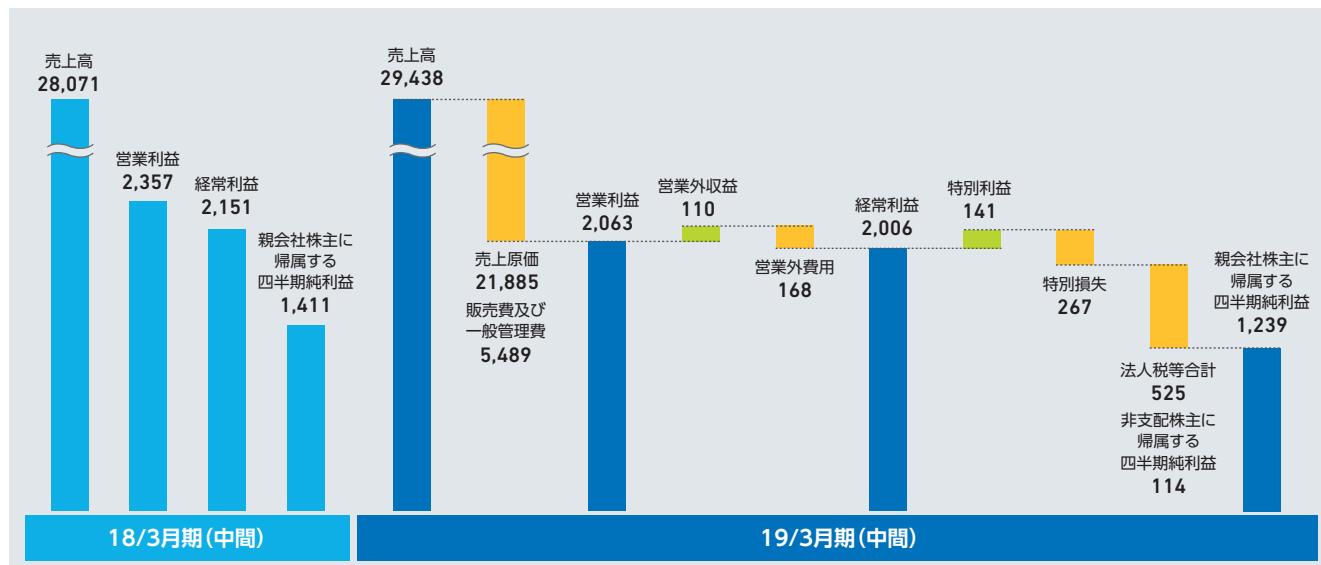
連結貸借対照表 (百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書 (百万円)



連結損益計算書 (百万円)





SDGs第3の目標「すべての人に健康と福祉を」
REACTマトリクスにおける社員×RETURNの構成要素として
従業員の健康を維持・増進することで会社の生産性向上を、
ひいては企業価値の向上を目指しています。



第一工業製薬は、従業員を会社の財産と考え、
従業員の健康の維持向上に努めます。

健康管理による疾病、
メンタル不調の予防

安全で衛生的な環境での
就労、生活

健康経営への取り組み

経済産業省主催の「健康経営優良法人2018～ホワイト500～」に関係会社5社と共に初めて認定されました。加えて、日本政策投資銀行の「DBJ健康経営格付」で最高ランクも取得しました。これらの第三者評価をもとに更なる企業価値の向上を目指します。具体的な取り組みは、健康診断などの100%受診継続、運動習慣の支援、バランスの取れた昼食の提供、受動喫煙防止、生活習慣病予防教育の実施、全額補助のあるインフルエンザ予防接種などがあります。メンタルヘルス対応は、

社内外に相談窓口を設け、社内教育を実施し、法令を上回る基準で産業医面談をしています。これらを経営層と共有し、健康増進に伴う全社の活性化を図っています。



会社概要・株式の状況 (2018年9月30日現在)

会社概要

社名	第一工業製菓株式会社
創業	明治42年4月
創立	大正7年8月
資本金	88億9,520万円
従業員数	519名(連結943名)

取締役、監査役

役職	氏名	役職	氏名
代表取締役 会長兼社長	坂本 隆司	代表取締役 専務取締役	赤瀬 宜伸
常務取締役	浦山 勇	常務取締役	大西 英明
取締役	北田 明	取締役	岡本 修身
取締役	山路 直貴	取締役	河村 一二
取締役	三澤 英人	取締役(社外取締役)	青木 素直
取締役(社外取締役)	高島 雅博	取締役(社外取締役)	谷口 勉
常勤監査役	西崎 信一	常勤監査役	藤岡 敏式
監査役(社外監査役)	井手 秀彦	監査役(社外監査役)	田中 晴男

事業所

●本店	●名古屋支店	●四日市事業所 千歳工場
●本社・研究所	●九州支店	●四日市事業所 霞工場
●東京本社		●大湊事業所
●大阪支社		●滋賀事業所

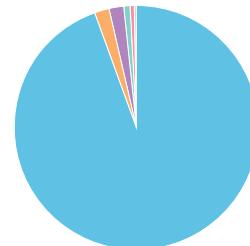
【単元株式数の変更と株式併合のご案内】

当社は、2018年6月26日開催の第154期定時株主総会の決議により、2018年10月1日をもって当社普通株式について5株を1株にする株式併合を行い、また、単元株式数を1,000株から100株に変更しております。

株主分布状況

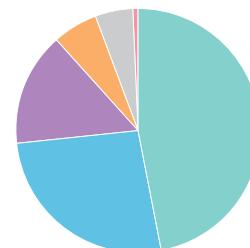
株主数比率

●個人・その他	94.46%
●その他法人	2.18%
●外国法人等	1.92%
●金融機関	0.77%
●金融商品取引業者	0.65%
●自己名義株式	0.02%



株式数比率

●金融機関	47.06%
●個人・その他	26.41%
●外国法人等	14.97%
●その他法人	5.86%
●自己名義株式	4.90%
●金融商品取引業者	0.80%



大株主一覧(上位10名)

株主名	所有株数(株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	6,985,000	13.75
第一生命保険株式会社	3,067,000	6.04
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,259,000	4.45
株式会社みずほ銀行	2,135,000	4.20
株式会社京都銀行	2,085,000	4.10
朝日生命保険相互会社	1,697,000	3.34
DKS取引先持株会	1,388,000	2.73
第一工業製菓従業員持株会	1,288,874	2.54
RE FUND 116-CLIENT AC	1,245,000	2.45
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	932,000	1.83

(注) 1.当社は自己株式を2,616,104株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

2.持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

3.株式に関する情報は、2018年9月30日現在のため、10月1日を効力発生日とする単元株式数の変更及び株式併合後のデータは反映されておられません。

TOPIC

「China International Battery Fair 2018」に出展

2018年5月22日～24日、中国深圳市の深圳国際展示センターで開催された「China International Battery Fair 2018」に出展しました。

中国におけるリチウム電池用市場に向けた、分散剤やゲルポリマー電解質、導電助剤分散剤など最新の製品や技術を展示紹介しました。



株主メモ

創業年月	明治42年4月(1909年4月)
事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	毎年6月下旬
配当	期末配当金受領株主確定日 3月31日 中間配当金受領株主確定日 9月30日
単元株式数	1,000株(2018年9月30日現在)
発行済株式総数	53,421,609株(2018年9月30日現在) <small>(注) 株式併合(5株を1株に併合)に伴い、2018年10月1日付をもって、発行可能株式総数20,422,000株、発行済株式総数10,684,321株になっております。また、単元株式数を1,000株から100株に変更しております。</small>
お取扱窓口	証券会社等に口座をお持ちの場合、住所変更や買取請求等株主さまの各種手続きは、原則として口座を開設されてい

る証券会社等経由で行っていただくこととなりますので、ご利用の証券会社等へご連絡をお願いいたします。
証券会社等に口座をお持ちでない場合(特別口座の場合)、みずほ証券(株)及びみずほ信託銀行(株)にてお取次いたします。

お問合せ先 〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4
みずほ信託銀行(株) 証券代行部
フリーダイヤル 0120-288-324
(土・日・祝日を除く9:00～17:00)

**未払配当金の
お支払** みずほ信託銀行(株)及び(株)みずほ銀行
の各本店及び全国各支店

上場取引所 東京証券取引所(証券コード4461)

第一工業製薬株式会社

〒601-8391 京都市南区吉祥院大河原町5
TEL 075-323-5911 FAX 075-326-7356
<https://www.dks-web.co.jp>

統合レポートは
こちらの
QRコードから



UD
FONT

